

わたしはぶどうの木

ヨハネによる福音 15:1-8

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていないながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。

説教

復活節の意味とはなんでしょう、復活の喜びの余韻だけではないでしょう。2000年前の出来事を祝うという意味だけではなく、今もわたしたちと共におられるキリストを祝うといったらへんに思われてしまいますが、今も生きて働いている（作用している）キリストとの深いつながりを祝うというか、感じるというか、よく使われるキリスト教用語で言えば「味わう」という言

い方、ああ、イエスさまが共にいてくださるのだなあと深く味わう時節として復活節はあります。

復活節の第五・第六主日はヨハネの福音書から最期の晩餐でのイエスの遺言説教を朗読します。ヨハネ福音に記されている説教は13章から17章までである長いものです。今年は15章から今週と来週にわたって朗読する配分になっています。

この長い遺言説教のなかほどに位置する15章（きょうの朗読ですが）はぶどうの木のとえで始まります。

わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。ヨハネ 15:1

イエスはぶどうの木で神は農夫に喩えられています。

わたしたちの知っているぶどうの木はけっして大木ではありません。その幹はそれほど太くもなく、巨木となることもありません。そもそもぶどうの実を収穫するために栽培するので、あまり大きくなると収穫が難しくなるので小さく育てているのでしょうか。ぶどう酒用の木は背丈も低く、わたしの感覚ではそう見栄えもよくありません（テレビの紀行番組で見るとそれはさまざまな栽培方法があるようで、フランスにはフランス方式、ドイツにはドイツ方式、アルゼンチンには、オーストラリアには、南アフリカには、というように気候風土にあわせて栽培を工夫しているようです）山梨県での果実用のぶどうはぶどう酒用のものよりは大きく、棚状に実がぶらさがるように栽培されています。（観光ぶどう園でぶどう狩りしたことのある人は思い出してみてください）

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネ 15:5a

このようにわたしたちは枝にたとえられています。そして、わたしにつながっていなさい=ぶどうの枝になりなさい、と話をされます。

つづけて、枝の中にも実を結ぶ枝とそうでない枝がある、実を結ばない枝は「父が取り除かれる」つまり農夫が剪定するという栽培技術にたとえて話されています。そして、よい枝はますます豊かに実を結ぶとあります。

さて、わたしたちにとってこのことはどんな意味があるのか？

つながる、枝になる、よい実をつけるとは具体的には、実際にはどうすればいいのか。また剪定されないように、父に取り除かれられないようにするにはどうすればいいのか。

毎週の教会の礼拝に出席することがイエスにつながることなのか？

聖餐にあずかることがなによりも重要なことなのか？

一週間に一回では足りないから、時間があったら教会にいつて祈り奉仕することが「いよいよ豊かに実を結ぶ」ためには必要なのか？

イエスはこのように説教しているのでしょうか。

きょうの朗読の結びにはこうあります。

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。ヨハネ 15:7

誰の中にも「祈りがかなえられなかった」という苦い経験があるでしょう。

わたしたちはこのイエスのことばをどう受け止めるべきでしょうか。

かなえられなかった、じゃ他の神さまに乗り換えよう、これでは身勝手すぎるし、多くの人はこのようにはしないでしょ。望むものがなんでもかなえられる、これがイエスのことばであり、イエスの約束です。このことばをただ信じる、ひたすら信じる、かなわなかった祈りをかなうまで祈り続ける、これもひとつの態度だと思います。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と話をはじめられたイ

イエスが期待されたこととは、イエス・キリストの愛に結ばれて、わたしたち自身が愛する者になる、わたしたちの中に愛が実現することです。そしてこの祈りを支える信仰とは、イエスご自身が苦しみと死を味わい、愛によって死を越えて、愛そのものである神と一つに結ばれた、という出来事です。これがイエスの弟子となる、父が栄光を受けるということにつながっています。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」ということは洗礼や礼拝への参加などよりももっと根本的な生き方の問題です。わたしたちが目に見えないイエスとのつながりを生きることこそが大切なことだということがわかってくるのではないのでしょうか。
